

震災から1年が経過しました

昨年3月11日の東北地方太平洋沖地震から1年余りが経過しました。震災ではルネサスも那珂工場が甚大な被害を受けましたが、その後の急速な復興は、社会的にも話題になりました。那珂以外の各地の工場も一時操業停止になり、首都圏の事業所でも交通機関のマヒや計画停電の影響がありました。サプライチェーンの上流・下流にある企業も震災の影響を受け、需要の停滞や、資材の入手困難と言った障害もありました。私生活にも不自由が生じた中で、さまざまな障害や困難を、社内外の多くの関係者の努力によって克服した結果、今年も年度末を向えることが出来ました。今日こうして来年度を見越した論議が出来ることを大変ありがたく思うとともに、ルネサスを支えて下さった全ての方々に、従業員の一人として深く感謝申し上げたいと思います。

昨年末に制度一元化の論議が決着した事を踏まえて、新たな制度改定の要求を殆どしませんでした。したがって一元化の中で決めた賃金体系についても、維持されたのは当然であると認識しています。むしろ、新しい賃金体系で、従来の賃金水準が本当に維持されるのかどうか、今後数年をかけた継続的なウォッチが必要と考えます。

その他の成果は？

雇用延長制度の成績条項の廃止（希望すれば誰でも取得可）を法律より1年先駆けて実現する取り組みは、残念ながら成果を上げられませんでした。最低賃金の改定も、18歳のみ要求を絞ったにも関わらず、1000円の改善要求に対し、半分の500円の回答となりました。これら残念な結果は、ルネサス労使よりも、産業界全体の厳しい姿勢を反映したものです。産業界の圧力を跳ね返すためには、労働者側にも、これらの必要性を理解して、強い合意形成をする事が求められると思います。

ルネサス懇

ルネサス関連労働者懇談会 2012年3月18日

E-Mail : renesaskon@gmail.com

Web : http://www.renesaskon.net/

住所 : 東京都港区三田3-2-20 電機労働者懇談会気付
TEL : 03-3455-6006 FAX : 03-3451-3595

2012春闘の回答が出ました

3月14日、春闘の一斉回答がルネサスを含む各社より出ました。ルネサスは、賃金体系維持、一時金は年間で4.0ヶ月を何とか確保しました。3月までの賃金カットも、来月以降は解除される見込みです。

一時金4.0ヶ月をどう見るか？

今年度は、震災の影響や超円高、タイの洪水や欧州金融不安の影響があり、100日プロジェクトで会社再建中のルネサスは、更なる重荷を背負うことになりました。会社の資金繰りが予定以上に苦しくなったなかで、電機の産別ミニマムである4ヶ月をキープできた事には、一定の評価が出来ると思います。このような回答を引き出した労働者の頑張りを、大変素晴らしいと思います。

賃金体系よりも賃金水準の維持を

今年は2年に1回の労働協約改定の年でありながら、

三菱、日立、NECの春闘

今年の電機各社の春闘は、業績好調な三菱と日立さえもベースアップ要求をしない方針を打ち出すなど、開始時点から消極的で、業界全体の要求・妥結水準の低迷が改善されない結果となりました。

一時金の妥結月数は、三菱が年間5.67ヶ月、日立が5.28ヶ月と、昨年の実績を若干下回りました。良くも悪くも、企業が上げる利益と、それが従業員に還元される割合とは、この程度の相関だと覚えておいた方が良いでしょう。

NECは、営業利益700億円を上げながら、リストラに費用をつぎ込んだために、最終損益は赤字となり、一時金は4.0ヶ月、しかも妥結した翌日に賃金カットの逆提案を会社から受けています。

総じて、黒字でも大して幸福にはなれず、赤字になれば一層不幸になる構図が見えた春闘でした。

ルネサス懇第7号ピラを全国で配布

2月半ばから3月にかけて、ルネサス懇第7号ピラと電機労働者懇談会の12春闘統一ピラのセットを、全国の各拠点で配布いたしました。合計で2800枚を超えるピラを職場に届ける事が出来ました。

2月15日は、相模原事業所と最寄り駅の南橋本駅前で行いました。1月末にNECが発表した1万人リストラに対する抗議を兼ねて、横断幕を掲げた情宣活動は、普段よりも多くの注目を集め、計489セットを受け取って頂くことが出来ました。

3月2日の高崎事業所前の宣伝活動では、群馬県労会議などのご協力を得て、計400セットを配布しました。小雨の降る悪天候の中ではありませんでしたが、7～8割もの方に受け取って頂きました。

今年も各地で情宣活動を実施する予定です。ルネサス懇のピラにご注目ください。
(右写真は群馬県労会議の真砂貞夫議長)



SoC事業再編はどうか？

2月8日の日経記事は、ルネサス、富士通、パナソニック3社のシステムLSI事業の統合に向けて協議が開始されたと報じました。報道によれば、3社のシステムLSI事業を切り出して、産業革新機構の出資のもとにファブレスの新会社を設立する構想のようです。また、製造部門については、ファウンドリーの大手であるアメリカのグローバル・ファウンドリーズが設立する新会社に工場を移管する計画とのことで、移管対象の工場としてルネサスの鶴岡工場が挙げられています。寝耳に水の報道に、「各社の赤字部門を整理するための分社化ではないのか」等、ルネサス社内でも様々な憶測が飛び交いましたが、現在に至るまで社内における正式な情報は一切無く、マスコミ関係からも、その後は目立った続報がありません。

100日プロジェクトに従い事業構造の選択と集中を進めるルネサスは、SoC事業における非中核事業について集約を進めています。しかしSoCの中でも、一昨年ノキアからLTE技術を買収して設立したRMC（ルネサスマバイル）や、産業・インフラ系などは、今後の伸張事業との位置づけです。本当に、これらの事業を切り出すのでしょうか。また、同じシステムLSI事業でも、富士通はASIC系が中心で、パナソニックは自社のデジタル家電向け専用品が主体であるなど、ルネサスとしては縮小局面にあるビジネス領域と重なるため、コラボレーションと言う点で疑問が生じます。鶴岡の300mmのラインにしても、ルネサスの最先端製造技術を持つ工場というだけでなく、震災後のBCP（事業継続計画）により、那珂工場とのクロス生産を可能とする重要な拠点でもあり、今後は40nmのMCUの生産を拡大する方針だと聞いています。

以上の他にも様々な疑問が生じますが、企業の枠組みを越えたSoCの事業再編に向けて、国レベルでの模索が続けられている事だけは確かだと思った方が良さそうです。今後の動向が注目されます。

編集後記 先日のエルピーダ破綻のニュースには、大きな衝撃を受けました。NEC、日立、三菱のDRAM部門を集結したエルピーダは、ルネサスの兄弟会社的な存在でした。同社の破綻によって、優秀な従業員が頑張るだけでは、どうにもならない事もある半導体業界の現実を、改めて強烈に意識させられます。だからこそ私達には、会社を通じて出来る事と社会を通じて実現すべき事の、両方の取り組みが必要なのでしょう。